

「特集」

イノベーションのジレンマ

「既成概念」を断つ。

企業のイノベーションにとって最大の障壁となるのは何だろうか。

イノベーションとは、

1人の天才による発明や発見ではなく

手法、プロセス、経営手法や政策に

発明・発見、革新的なアイデアやテクノロジーを取り入れ、

世界のビジネスや社会のさまざまな分野の問題解決に役立てること。

考えてみると、これは本来、日本人の得意分野であった。

日本人はさまざまな場面でイノベーションを興して

戦後の経済的成長を築いてきた。

だが、そつやつて成功した優良企業が自覚症状もないまま

あちらこちらに綻びを生じ、

気づいたときはすでに末期症状に陥っていた例は枚挙にいとまがない

成功している企業や組織であればあるほど、

自己の打ち立てた成功体験や既成概念に縛られ、

イノベーションから取り残されていくという。

いつまでも若々しく元気な企業に共通する秘訣は何か。

今号では、特に「企業」のイノベーションにフォーカスを当て、

なぜ、いま日本の企業にとってイノベーションが必要なのか、

どのようにイノベーションを興せばよいのか、

また組織、制度はいかにあるべきか、

変えるべきものは何か、維持するものは何かなどについて考えてみたい。

今号は去る9月14日に帝国ホテルで開催された日本IBM主催のG・I・O(Global Innovation Outlook) Salon in Japanにて議論された内容を基に、それを発展させたまとめました。